

(東京大学新聞97-07)

読書でスペインを知ろう

—夏休みのための三冊の本—

待ちに待った夏休み。こんなに長い休暇は人生にそう滅多にない。学期中は時間がなくて読みたくても読めなかった本がたくさんあるはずだ。思う存分読書の時間をとろう。

さてスペイン語で読める本となると、教養学部の外国語図書室には基本的な図書を揃えているが、一冊ずつしか置いていないので大勢の学生に勧めることはできない。やはり自分で書き込みができる本を手に入れたい。しかし、それを見つけるのは今の日本ではなかなか難しい。大きな書店でも手にとって見ることのできるスペイン語の原書はそんなに多くは置いていない。はじめに、スペイン語図書の専門店を紹介しよう。イタリア書房。〒101千代田区神田神保町2-23。Tel. 03-3262-1656。スペイン書房。〒112文京区小石川3-36-13, TMビル4F。Tel. 03-3811-0203。マナンティアル書店。〒102千代田区六番町4-3, 山菱ビル2F。Tel. 03-3264-0788。文流。〒169新宿区高田馬場1-33-6平和相互ビル704。Tel. 3208-5445。リブロ。〒101千代田区神田小川町2-4-2芙蓉ビル6F。Tel. 03-3291-8686。自分だけの原書を手に入れたときの感動は忘れがたい。値段が少し高めなのは仕方がない。

実は簡単に入手でき(生協で注文できる)、比較的廉価な本がたくさんある。それは大学などで使用されているサイドリーダー(副読本)だ。ありがたいことに難解な部分には注がついている。スペイン語初級を終えた諸君には、次の3冊を勧めたい。(1)アナ・マリア・マトゥテ「ファウスト」白水社。(2)フアン・ラモン・ヒメネス「プラテーロとわたし」芸林書房。(3)ミゲル・デ・セルバンテス「ドン・キホーテ」芸林書房。(1)はマドリードを舞台にした少女と捨て猫の悲しい物語。(2)はロバと作者の友情を扱った作品でアンダルシア地方の生活と風景を描く文章が美しい。(3)は世界文学の最高峰の抜粋。夏休みの読書によってスペインの都市と地方、現代と黄金世紀を駆け巡るのはどうだろう。

上田博人(教養学部)